



はじめての ICT ～これは機械ではなく機会です～

一般社団法人 結ライフコミュニケーション研究所 理事・研究員

よしあき
高橋宜盟 yoshi@yui.fi

【身体の不自由がある場合のICTの機器の導入について】

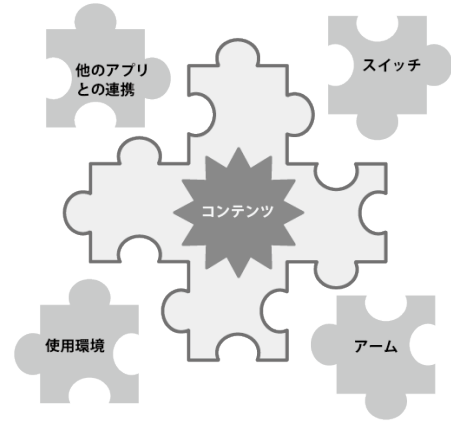
身体の不自由がある場合のICT機器の導入は、
まず機器については、

- ・スイッチ類とその設定
- ・機器（パソコン・タブレット）
- ・スイッチ類と機器との接続
- ・機器の上で動くアプリケーション
- ・アプリケーションの設定とコンテンツ

そして人については、

- ・利用者の理解と操作
- ・介助者の理解と操作

がポイントになると考えます。これらがすべて揃ってうまくいくもので、どれか一つでも欠けてはうまくいかないと私は思います。



機器はさまざまなものがあり、日々進化しています。さらに利用者の身体状況も日々変化します。朝晩で動きが異なることもあります。家族が面会にくるまでと帰った後では気持ちの違いが身体の状態を変えることもあります。それらに合わせて機器を合わせる必要もあることでしょう。機器に合わせて人を調整するのではなく、人に合わせて機器を調整することが大事です。

理解と操作は、利用者とそれを介助する人と、そこに関わるセラピストの関係の調和が大切です。利用者も介助者も、それまでの人生の中でさまざまな経験をして考えを持っています。このやり方が良いという方法があってそれに従うということではなく、一緒に考えて進めていると感じることが大事だと私は考えます。

どちらのことも、すべてを理解して運用できるスキルはかなり高度な水準が要求され、関わった方の人生が担当したセラピストによって大きく変わってしまうかもしれません。より良い結果につながるためのスキル・経験はどのようにして身につけていったらよいのでしょうか。

あのJean-Pierre Ribreau のおじいさんが彼に「25年の経験はきっかり25年かかって得られる」と言ったそうです。さあ、これは大変。修行をした人しか出来ない仕事だったら困ります。

味噌汁は、経でも昆布でも出汁から取ったら美味しいけどこれは大変。そこで「家庭で作る料亭の味」味噌が手伝ってくれます。インスタントやレトルトとは違い、料理の基本は知ってないといけませんが、これは大助かりです。

私はインスタント食品も使います。時間がない時は重宝します。インスタントラーメンであつたらネギを切る、もやしを炒める、海苔を添える、バターを乗せるだけでもオッケー。その一手間を加えたら愛情ある食事になります。

和食・洋食・中華、全部が完璧でなくても料理はできます。仮にそれらが完璧であったとしても経験のないフィンランド料理を初めて作るようになったら？その時は工夫と愛情をもって取り組めば、喜んで食べてもらえることでしょう。

コミュニケーション機器も同じように考えてみるといいと思います。何もかも一気に極めるのは無理です。だからまずは興味を持ち、できるところからやってみることで。何かを一つ試してみて、そこから次に繋げていきましょう。スマホを使っていますか？便利ですよ。その便利さは患者さんにとっても便利なことかもしれないと考えることからスタートしてみましょう。

【目標を見誤らない】

コミュニケーション機器を導入する目的を間違わないように常に気をつけておかないと、本末転倒なことが起こってしまいます。ICTは魔法の杖ではありません。導入したら何かが劇的に変化して問題が解決するなんてことはありません。あくまでもきっかけです。

導入に際しては、「何を使うか」ではなく「何をするか」が目的であることを常に心に留めるようにします。そして、導入の過程での人の関わり方も大切にしなければなりません。

病気や事故、障害など、大変な出来事があって不安は一杯です。落ち着いて全体を見て、先の見通しも立て、寄り添う気持ちが大切です。正しい知識を持ち、常により良くなるよう・より良くしようと、工夫と挑戦を続けること、愛情を注ぐことが大切だと私は思います。



【意思伝達装置をいつ導入すべきか？】

以前、セラピストさんから「ALSの患者さんにいつ意思伝達装置を導入すべきでしょうか？」という質問がありました。「身体機能が低下していく中で、意思伝達装置を使い始めましょうと宣言することは、状態が悪くなっていくことを宣告することにもなるのでしづらい、でもタイミングを逃すと機器の操作を練習することもできなくなり、結局使えなくなってしまうのでとても気を使います。」ということでした。

この問いかけは「楽しいiPadライフをいつ始めるか？」と置き換えてみたら、答えはすぐにでてきます。「いま」です。機器を使うのではなく、iPadで写真を撮りに出かけよう、映画を見よう、音楽を聴こう、コミュニケーションアプリを使おうって、楽しむことを一緒に想像したら、きっと前向きに取り組んでもらえることでしょう。

そんなお話しをしたら「あー、あの人のベストタイミングを逃してしまったかもしれない」と患者さんのお顔を思い出しながら申し訳なさそうな顔をされていました。いえいえ、今日始めたらこれからの人生の中で一番早いスタートです。遅いということは常にありません。

【黄金の脳プロジェクト】

頭の中ではさまざまなアイデアがあっても、事故や病気、障害によってそれを伝えられずにいることがあります。もしかすると、世の中のいくつかの問題の解決策は既に見つかったのかもしれないのに、深海に沈んだ難破船の財宝のように眠ったままになっているかもしれません。

この眠れる黄金を取り出して世の中の役に立つビジネスに結びつけていくことが、このプロジェクトの目的です。

《いまを生きる》

2045年には人間の脳の処理速度をコンピュータが追い越し、頭で考えたことが直接コンピュータにつながると言われています。これまでと違った世界が待っていることでしょう。それは素晴らしいことですが、2045年まで待てません。「いま」を生きることも重要です。将来の研究とは別に、いまあるテクノロジー（あるテク）を工夫して組み合わせて今日の生活に役立てることも必要です。

《相手を尊敬し思いやる関係に》

これまで自分の思いを伝えられなかった人が話をする中で、これまで相手の思いを汲み取れなかった人との意思の疎通が図れるかもしれません。話しをすれば相手のことを理解したくなります。相手を知れば不安や偏見がなくなり、心を開いて相手をもっと知れば差別がなくなります。誰もが尊敬し合える相手だと気づけば、お互いに認め合い、助け合う世の中になると信じています。

